洛星新聞
洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL(46) 3281(代)
印刷　吉川印刷工業所

意欲的な活動 高校生徒会

月額百五十円に 会費大巾に上る

生徒会費値上げ

高校生徒会は昭和三十六年度前期に生徒会費を月額一二五円（新聞局費も含む）に値上げして以来、五年間値上げを行わなかった。（途中で新聞局費が分離され、生徒会費は新聞局費の分を差し引いて月額一〇〇円となった。）ところが年々消費者物価の上昇が続き、特にクラブ予算・本部費に対する圧迫が強くなり、四十年度から既に会費値上げが検討されていた。四十一年度前期に入って予算案を決定する際に、多額の要求のあるクラブ予算が実際にどれ程必要であるのか知ろうと思ってクラブ側と折衝を行なった結果、総額三十万円の辺りが正常な活動のために必要な額であるとの結論に達した。

ところが執行委員会案ではクラブ予算は総額二十二万円余であり、しかも本部予算や記念祭予算をけずってクラブ側にまわすことなど到底できぬ状態であり、また予算の決定が遅れるとクラブ活動などにも支障を来たすとの見地から、前期予算案はそのまま出来るだけ早く承認を得て、然る後に会費値上げ案を提出しようと言うことになった。ところが予算審議のための生徒総会で、一部会員から生徒会費の値上げとクラブ予算の増額を要求する声が出、生徒会則に従って先に評議員会で審議されることになった。

評議員会からの要請で執行委員会内に会費値上げに関する調査委員会が組織され、公聴会の開催による会員の意見の聴取、会計資料の調査などから会費値上げの必要性を認めて、それらを資料として評議員会に提出した。評議員会でもその必要性を認めて会費値上げ案を可決し、更に値上げ幅を五〇円と活定した。その間にHRにおける討論が持たれたことは言うまでもない。そして六月二十一日に開かれた総会で三八一名の賛成（全生徒数五五四名の三分の二以上）をもって生徒会費は去る五月にさかのぼって月額一五〇円にすることに決定した。議長・会長・監査委員長が総会での決定を校長に報告に行ったところ、校長が月額四〇円、七月からの値上げでなければ認めないとの態度に出たため、以後の生徒会のことを考えて七月からと言う条件をのんで月額五〇円の値上げと言うところで一応妥協、二十四日の評議員会にかったところ、承認されたので、正式に七月から月額五〇円の値上げと決定した。

値上げに伴う増収分十一万八百円は、大体一対四対六の割合でそれぞれ本部費、記念祭費、クラブ費にまわす事にした。なおクラブ費は予算案決定の際の第二次折衝による決定額の二一％余りが各クラブに配分されることになった。

第一回弁論大会

我々の意識面での向上を目指している現生徒会は、昨年度後期生徒会の後を受けて今期第一回の弁論大会を催した。なるべく色んな意見を聞けるようにとの考えから、各クラス一名以上の参加を呼びかけ、六月十八日（土）に予選ぶりを行なった。その日の弁士の中から上位六名を執行委員を始めとする審査員の合議で選出し、二十一日（火）のHRの時間に全員出席のもとに六名の弁論が行なわれた。弁論の後会員の投票で六人の中から上位入賞者を決定した。その結果、第一位塚本啓介（3A・ああ無気力）第二位東良徳一（2D・洛星の消極性）第三位中川俊雄（2B・人類平和への道）となった。全般的な感想を述べてみると、まず弁論の態度が気にかかった。自分の弁論であるのに、人の原稿を読んでいるかのような話しぶりで余り自信がないといった風も豊かになり、放送時間も増加する事になるが、当分の間は現在の状態でやって行く事になっている。

〔PR〕放送の聞こえにくいクラスもあるそうですが、執行委員会の調査によると、静かでさえあればどのクラスでも完全に聞こえる筈です。放送時間中は静かにしていて下さい。

放送局設置

昨年の記念祭の頃に一時設置されていた放送局は四十一年度前期に入ってから高校生徒会内に設置され、六月六日（月）から放送を開始した。放送時間は朝八時二十五分から三十分まで。現在は生徒会に関係のある事のみを放送している。（朝礼のある日などは放送しない）毎朝の放送は執行委員が担当しているが、一学期に入ってから、生徒会の一機関として独立した「放送部」の設置を検討する事になっている。新たに「放送部」が設置される場合には、放送内容も豊かになり、放送時間も増加する事になるが、当分の間は現在の状態でやって行く事になっている。

〔PR〕放送の聞こえにくいクラスもあるそうですが、執行委員会の調査によると、静かでさえあればどのクラスでも完全に聞こえる筈です。放送時間中は静かにしていて下さい。

局員募集

風雪十五年 ①

前田吉宣

昭和二十六年風雪白梅町（現在は終着駅であるが、当時は市電との交叉点の小駅）西北の畑の一隅に、中学校の校舎の外観がコンクリートの臭いを残し完成したのである。周囲は未だ畑にて季節の作物が豊かに実っており、およそ学校らしい感容はなかった。現運動場の中央部にとても大きな野つぼが四つ程点在しており、全く京田舎ありの一言に尽きる状態から現在の洛星の姿を誰が想像しえたでしょうか。

洛星の将来への不安と又希望と、それはそれは不可思議な気持ちを当時奉職した先生方の誰もが持ち合わせた心境であったと思う。第二次大戦前から満州は瀋陽の北、四平街と云う町にて教育事業に専念されていたヴィアトール育英会が、大戦後のわが国の道徳頽廃が云々されていた時に、京都教区の司教の要請にもとづいて現在の位置に学校が誕生したのである。

昭和二十七年の一、二月頃と記憶するが、第一回の職員会議が開かれる。当時専任五人、講師三人その他六人の陣容で第一歩が刻まれたのである。三月に入試が行なわれ、百五十人程の受験生があった様に記憶している。筆記試験と生徒面接の結果合格した生徒百五名、ABC三クラス編成にて一クラス三十五名と云う理想的且つ家庭的な雰囲気の内に授業が進められたのですが、此処で当時の学校の模様について述べるに現在の諸君には驚くことが多いことと思う。

学とは真似ごとである原理からであろうか、生徒は教師の行動を善しにつけ、悪しきにつけ真似る所が多い故に教師の行動は生徒の為にも立派な行動でなければならない点から初代校長ホワイト神父は教師の模様から始められたと云っても過言ではないと思う。当時大半が独身者であった吾々教師は朝寝坊して頭髪に櫛を入れることも、ズボンをプレスすることも、ヒゲをそることも屢々忘れがちであり、その上靴を磨くこととて殆どなく登校しては校長から注意を受け、小言を毎日の如く云われたものである、当時はその小言が耳について嫌なものであったが、習慣化されてしまうと、これが日常のあたり前になって来て、つらさもなくなり、一つの嗜みともなって喜んでいる次第である。斯くの如く平素から校長から模られた次第で、生徒諸君は生徒で訓育部長（ナドウ神父）から現在の生徒諸君には少し出来兼ねる程きつい訓育がなされたのである。この当時のことが京都中の人達に強く印象づけられたことだと思う。

例をあげるとなると色々な事が思い出されるが、さしづめ日常生活からながめてみると、教室、ロッカー、廊下での静粛は徹底されたもので、授業中に騒々しい場合には必ず放課後一時間の黙想が行なわれたり、五分間の休憩時と云えど話すことが禁じられ、文字通り静かに次の授業の自習をせねばならず話しでもしょうならば直ちに廊下又は訓育部の部屋の前にて直立不動の姿勢にて黙想させられたものである、又幾度か注意を受けた生徒に対しては直ちに下校の処置もとられ授業を受けることすら出来なかった。掃除の際は机を必らず二人で移動さすことが教師、監督の上で徹底的になされ、終了後の点検は厳密を必須とされたものである。昨年度からなくなった中間体操（二時限目と三時限目の間二十分）は全員運動場に出て体操を行ったものであるが、体操終了後の僅少の自由時間が終了合図のベルが鳴ると如何なる場所にてもベルが鳴り終るまで静止して、迅速に集合、入場授業開始の順に静かに実行されたのである。

以上の様に洛星の日常生活のモットーは昔今も静粛の内に総べてが動いており、礼儀作法に関しても一週間一時間の授業が設けられて日本人の美風たる礼儀作法が徹底的に模げられたことも、今尚洛星の伝統の中に見ることができるのではなかろうか？（外来者の言にて云えることで、私達は満足はしていないけれど）

中学校舎しかなかった当時においては現在の諸君には知ること皆無だと思う故、次に開校当時の校舎内を案内してみる、朝礼は毎朝現中一C・Dクラスを一つぶちぬいた一室において行なわれ、父兄会、演劇各種のコンテスト実施された、特にコンテストは朝礼時によく行なわれ、優秀者には賞品のノートが贈られ懸命に賞をもらうためにやっていた様である。理科室は現中一B、聖堂は現保健室とその隣にある放送室と少し、訓育部長室が現小野副校長の部屋、図書館は現中学西階段東のナドウ神父と書いてある部屋、教員室は会計の西隣の部屋にて校長室と隣り合わせで、教員室で大声で騒いでいると校長から特別指名があってよくタコをつられたものである。

聖堂には毎朝ミサが行なわれており、大半の生徒諸君が礼拝に出ており、一日の無事を祈りつつ、授業を受けた様である、現高校校舎は畑地にて、全員放課後各々土地をもらって、好きな花や野菜を栽培したものである、特に秋ともなればサツマ芋やら大豆等を収穫して蒸して食べたものである、運動場は中学校舎裏（テニスコート兼バレーコート一面）芝生は当時はなく石ころがころがっていた始末、運動場も北半分にて南半分、西全体が草と畑が入り混じる有様、修道院も現ヴィアトール会館の中央部にあって、みるからに現在と比較すると、みすぼらしい学校であった。勿論創設当時はどこともしかり、である。二年、三年と年と共に洛星が充実して今日になったのであるが、今から思うと当時少人数にて色々の学校行事が家族的に教師も生徒も父兄も一弾となって本校発展のために又教育充実のために懸命になったことである。秋の運動会にしても、たった三クラスで午前中の運動会を開いたが全く町内の運動会の有様然としており、生徒は次々に演技をして行くと云うよりかわ生徒、父兄、教師三者が入り乱れての演技、見ようと二度とこの美しい雰囲気はない。クリスマス行事にしてもしかりである。特に記憶に残っているのはクリスマス演劇を京都ラジオ放送を通して聴覚者に聞いてもらったことである。今は有名俳優になった、津川雅彦君が当時主役になって放送したことである。当時の記念写真を見るにつけ、当時の有様が脳裡に浮んできては、年をとったなあと思いつつも、より一層諸君等の教育に創設当時の気持ちを忘れず励みたいと決心するのである。

紙面も後僅少になり続いて歴史的に見た洛星を次の先生へバトンタッチする前に私が与えられた紙面にエピソード的なものを紹介して終りたいと思います。

当時の三老人先生に関して、一人は頭の禿げたズーズー弁の先生、生れは東北地方で前記の満州四平街においてヴィアトール学園の学校長で本校にこられた時は教頭でもあったと思う、話が東北ナマリなために朝礼時での話は全く愉快そのものであったこと。一人は会計におわした人で、旧伏見区長なされたことのある官界出身で礼儀作法講義の先生、この先生小笠原流の礼儀としみでもあろうか、作法とはかくあるべきと一人でおしゃべりしておられたのはよかったが、生徒諸君クスクスと隅から隅へと伝播、何事やと思いけるに終業のベルが鳴る、生徒の一人、先生前のボタンがはづれています。その言葉でガチョン、せつかくの礼儀作法の講義も生徒の抗議を受けて赤面された話等思い出してもほほえましい風景である。一人の先生は理科の先生この先生も頭に二毛もないみごとな禿げぶり、いつも眼さえあればハンケチなどで頭をこすりながら、つやを出しておられる、熱湯の中にフタをしたまま牛乳瓶を入れて爆発させて皆に爆笑された話。次に豪傑男一人、教室に入るとたんその生徒口からバッタの足を二人出して口をもぐもぐやっている、何事ぞと聞いて見ると、先生あれ喰べたら五十円やらんなんのや、と二人の生徒が云う、聞く程に次から次へと虫と喰べた格価が出てくる。よくよくの欠食児童だのか若くして昆虫のエネルギーで大きくなったらしい豪傑男も遂に四月末に良き伴侶を得て本校の聖堂で結婚式をあげたのである。

一人の若き数学の教師、この先生マンモスのニックネームあり、毎朝十一時頃になると電熱機に飯ごうをかけて、昼食時には四合飯を塩とバタ1で食べる大食家、時たまビタミン類が切れるとみてか、大きなヤカンにホーレン草をそのままに鍋で食いちぎって喰べる先生、畑にパセリを作って、パセリのサンドウィチを昼食にしている図画の先生、先生仲間も色どりどりパラティーに富んでいてとても愉しい雰囲気である、昭和二十八、九年記憶は薄れているが、現高校運動場の前に時ならぬ明治時代の吉原の一角がセットされたことがある、約一ケ月続いたであろうか。松竹映画〝竹くらべ〟の野外ロケーションが行なわれ、美空ひばり、山田五十鈴等の俳優出場は生徒諸君を喜ばしたことでもある。

最後に夏も近づいて服装も軽装になって来たが、初期の洛星の夏の制服は流行激しい現在の諸君には反対を受けるものであると思うが、当時はこれが洛害の生徒だと云うことが一目で判明できる服装であった、上中帽子とも灰色に少し紺がかっており、どこかの外国軍人の感じだった。室町期から守られ続けられてきた行動に出られなかったことである。思うにつけつらいこともあったが、おいそれとおしそれ思い出が私には多い様であった。先輩の基いた良き伝統、即ち如何なる時も静粛で礼儀正しい、良識ある生徒であってほしい。

先輩との懇談会

六月四日（土）に行なわれた先輩との懇談会は、我々の高校生活と忙がしい（？）時間を割いて参加して下さり、在校生も五、六十名が参加して約三時間にわたって終始なごやかな雰囲気で何やかやと話し合った。

当日出席された先輩諸兄は、年令的にも第二期の方から第九期生まで幅広い範囲でしたが、また仕事や専攻部門の上においても広範囲な、多彩な顔ぶれでした。話し合いは、まずHIの質問で始まりましたが、はじめのうちは不慣れなせいもあって「懇談」というよりスムースなものではなくて、生徒同志の論争などもありましたが、しかし、時がたつにつれてなごやかになり、話しにも円熟味が増してきて生徒からの質問も次々とやつぎばやにでるようになって、時がたつのも忘れるほどでした。

暁星高校来校

6月11日（土）宮津のカトリック系女子高等学校である暁星高校の生徒会の役員が会長以下7名、本校生徒会を訪れた。目的は親善と、生徒会活動を活発化するための意見交換とか。予定では、一時に来校のはずであったが、12時5分、授業終了のベルがなり、放送で呼び出されて受け付けに、おもむいた処、7人はすでに本校に到着、授業が終了するのをまってこうして一応、生徒からの質問が尽きた午後四時、諸先輩の励ましの言葉を最後に第一回の懇談会は盛会のうちに幕を閉じた。

専門委員の分も本校のようには、はっきりしていないらしい。その後、文化祭・体育祭・クリスマス等の学校行事の模様を細々と聞かれたが、暁星は洛星と比較するとの小規模ではあるがミッションスクールとしての特色が生かされている。

しかし、この懇談会で一番、論議をよんだのは他校との交流、特に懇談会の先日、園部高校でひらかれた〝生建協〟の会議の参加の背景をめぐってである。本校生徒会は、発足が遅れてまだ活動が充分に軌道にのってない事、会議の分担金の問題、会場・政治的色彩の強い議題などを理由に参加を こばんだのであるが、この事は両校とも、まったく結論がでずに終ってしまった。

懇談は約2時間半続けられた。その後はプール、新講堂をはじめ聖堂・ケルブ館に至るまで本校の隅々まで案内したが、ケルブ館中には、女学生ながら特に感心していた。そして記念写真を取って、7人が洛星を去ったのは6時前であった。最後に「洛星の生徒はどうでしたか」と聞くと、彼女達がこ答えていうには、「洛星は、みんな勉強ばかりして、とても堅くてつきあいにくい人達ばかりと思っていました。でも私達の考えは、とても違っていた事に気ずきました。みんなそれぞれ特色があって、とても快活、クラブ活動も活発。とても感じがよかった。」という話でした〝みんなハッスルしよう〟。

ハンド・陸上部 晴れのインタ杯へ

ハンドボール部

6月26日、空は晴れわたり昨日までの悪天候がうそのようだ。少し温度が高いのが気にかかる。A コートでは女子の決勝が行なわれている。

1時女子の決勝は終始リードを続けていた精華が必死に、後をおう明徳をふりきって終った。女子の試合が終ると同時に、伏見工の選手がコートに出て練習をはじめる。1時5分を過ぎたころ、洛星の選手は、全員赤いユニフォームに身をつつみベンチに現われた。そのまま先輩を囲んでミーティング。そうするうちに、1時10分、ホィッスルがなった。選手全員コートに整列する。両校選手ともいきまくぶん責さめ、その緊張のほどがうかがえた。思えば昨年同じインターハイ予選で、我が洛星は、1回戦洛東高校に苦戦、無念の涙をのみ一万、伏見工は優勝の観涙にむせび……そして1年間、今一本の白線をはさみ、整列した選手達の胸に去来した思いは、どんなものであったろう。

試合開始のホイッスルがなった、試合は伏見工の先攻で始められた。が両軍とも緊張のためか、シュートが得点に結びつかない。時計はすでに5分をまわろうとしていた。その時、洛星の橋本のシュート。あざやかにきまって先取点をあげた。さらに8分、鈴木（学）が7mスローをきめて2点目をうばいとった。しかしホットしたのも束の間、13分、伏見工河原の左サイドからのシュートがきまり、その後に洛星もかえしたとはいうものの、再び伏見工田中の同じく左サイドからシュートがきまり試合はいよいよ、予断をゆるさなくなった。その後、鈴木（覚）のポストからの巧妙なシュート、鈴木（学）のスタンディングなどがどうもおかしい。選手の顔はこわばっていた。バラバラな動き。ベンチからは大きな声がとぶがあとが続かない。このままではだめだ。ガンバレ、ガンバレ洛星。その思いが伝わったのか、勝利の女神は、ついに我が洛星に微笑んだのだ。後半4分、洛星には幸運な7mスローが与えられた。鈴木（学）がこれをおしとめようにきめる。続いて橋本が2本連続にきめるにおよび、ようやく、危機を脱したのである。その後は、日ごろの調子をとりもどし洛星ペースに、宿敵伏見工業高校を敗ったのである。ベンチに走りながら引きあげてくる選手の顔は、汗と涙で光っていた。「よくやった。よくやった。」ギラギラ輝く太陽が選手達を祝福していた。……

なお、インター杯は4年ぶり4度目の出場で7人制としては初出場。

▽昭和41年度全国高等学校総合体育大会選手権

第17回全日本高等学校ハンドボール大会兼第9回近畿高等学校ハンドボール選手権大会京都予選会

一回戦　不戦勝（シード校）

二回戦　洛星 22（11－2, 11－7）9 西京

準決勝　洛星 17（6－1, 11－2）3 大谷

決勝　洛星 16（6－3, 10－6）9 伏見工

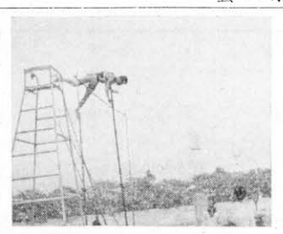
背番号	氏名	学年	レユート数 前	レユート数 後	ポイント数 前	ポイント数 後
1	宮川 清	2	0	1	0	4
2	安藤 穂高	2	1	0	0	3
3	小泉 明文	2	0	2	0	1
4	渋谷 滋	3	1	3	1	1
5	吉沢 潔	3	3	1	1	3
6	市田 寛隆	3	1	3	1	1
7	鈴木 文隆	3	8	4	0	0
8	六鹿 豊	2	3	1	1	4
9	鈴木 学	2	2	5	0	0
10	橋本 進	2	1	2	1	4
11	塩見 美樹	1	2	1	0	5

インター杯優勝　洛星

洛 塔 乙 洛 西 日 伏見工 嵯峨野 桃山 平安 大谷

洛星 南 訓 東 京 吉

陸上部

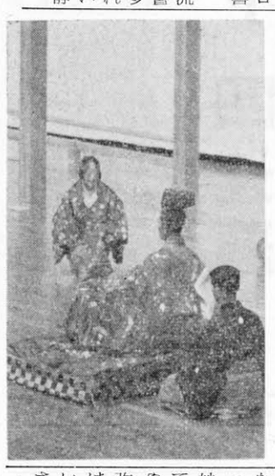


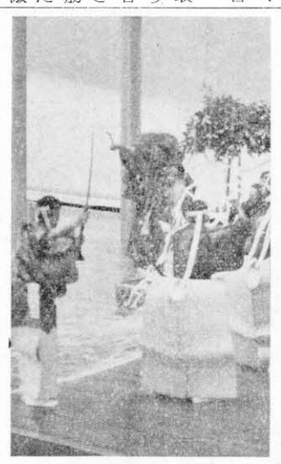
京都インター杯
棒高飛び
一位　三メートル九〇　奥田　健
走り幅飛び
六位　六メートル四九　五石　英博
近畿インター杯
棒高飛び
五位　三メートル八〇　奥田　健

二〇〇メートル・ハードル
予戦
一位　二七秒四　奥田　健
二位　二八秒一　岩田
準決勝
三位　二七秒五　奥田　健
一、六〇〇メートルリレー
予選
三位　三分四十秒一
準決勝
四位　三分四十秒三
岩田　岩井　慎二　吉田　奥田　健

記念演能会 催さる

今年の六月十四日（火曜日）の午後一時三十分より新ヴィアトール会館2階において、能・狂言の鑑賞会が開演された。この能・狂言鑑賞会は今までにも、度々行なわれてきたが、何と言っても従来と異なる所はその場所であろう。正に新講堂はこの催しにふさわしい建物だった。中一から高3までの全学年が昼からの授業を国語科として能・狂言を観賞したのは実に有意義な事である。先ず昼休み昼食後1時に中・高それぞれ集合し、そして新講堂へ入場した。簡素な構図と色彩の緞帳があざやかである。国語科吉村先生の配役紹介が済んだ後、大緞帳が上がって「附子（ぶす）」であった。太郎冠者・次郎冠者・主の登場で初まったこの狂言は話の筋も仲々面白く、かなり低学年の方をも引きつけた様だった。太郎冠者と次郎冠者の極自然でしかもいやみのない軽妙洒脱な会話、太郎冠者と次郎冠者の心理過程、主の苦しい言い逃れ、全体的なオーバーな動作等く良く理解できる様にとの心もあり、我々を楽しませてくれるには充分過ぎる程だった。観覧席からもときどき笑いがもれたりする程愉快なこの狂言は好評の模様だった。また言葉の面に於いても、ほとんど差支えがなかった様だ。狂言が終了して、しばらくしてから能が行なわれた。囃子方の太鼓・大鼓・小鼓・笛のかもしだす能独特の雰囲気が新講堂内に漂った。段々と調子を高め、強く打つ鼓の音に、新館全体がシーンとなった。いよいよ開演。平家物語からの取材である。この「土蜘蛛」という能は、動きが多く、初めて観る者にも理解しやすい能として選考された物という事であった。話の筋もわかりやすく、まことに好選だった。謡の一つ一つの言葉にも微妙なる調子や強さ弱さが考慮されてあり、演能者の演技の細やかさや注意深さがうかがわれた。観阿弥・世阿弥親子が大成させた能楽は今や全く完成された物になっているという事が、その事より推察された。彼らがどまでも追求した〝幽玄枯淡の美〟を我々になるべく良く理解できる様にとの心もあってか、演能者の演技は誠に真がせ美しく、迫力がある素晴らしかった。またシテの細かい動作の良さ美しく、迫力がある素晴らしかった。またシテの細かい動作の良さ蜘蛛の糸を投げつける所は、正に出てくる能の演技、囃方の迫力ある囃等見ごたえがあった。シテが独武者との戦いは圧巻で、我々を魅了させた。すこし謡において、言葉がわからないという事もあったが、おおむねプリントと、舞台の様子で理解した感じだった。室町期から守られ続けられてきた能、これを初めて見てしかも演能者の方も一流の為「かなり良かった」と言った人が多かった。しかし、生徒の祖母がこられていた所があったが、これらを見ても良い話だ。日本のある一面の素朴な感情を理解するに最適な能・狂言。この観賞によってもう一回能を観賞したいと思う人が増したら、津川雅彦君が当時主役になって放送したことである。今は有名俳優になった、津川雅彦君が当時主役になって放送したことである。今はクリスマス演劇を京都ラジオ放送を通して聴覚者に聞いてもらったことである。当時の記念写真を見





巷談

▼〝職後二十年〟あのいまわしい太平洋戦争は、一昔の出来事となってしまった様である。政治の面にも、大きな変化があり、日本語という言葉の世界でも、いろいろ変ったところが多い様である。一例を上げると、戦争では全く廃語の様になった言葉の〝忠義〟や、戦争直後には全く姿を消してしまい、現在に至って復活し、良く言葉の中身を調べてみると、昔とは全く意味内容を変えてしまった言葉がある。〝愛国心〟という言葉がそれである。中身が変ってしまったなら、言葉自体も変って良さそうなものだが、その代りとなる言葉が見当らぬのであろう▼さて、いわゆる〝戦前〟までの愛国心は、天皇に対する忠君が、その中核をなすものであった様である。しかし、現在では天皇に対する関心も極自然な、無理のないものとなり、忠君と愛国を結びつけて考える人は少ない様である。しかし、その反面「愛すべき何物もない国ではないか。」等と、うそぶく若い世代もあるという▼しかし、これはどうであろうか。第一に、愛すべき何物もない国というが、国土や伝統、先人の業績や現在の状態、将来の計画性は、あえて言わぬとしても、その国の中に、自分という人間の存在を忘れてはならない。誰が何と言おうとも、自分で自分を愛しているということは、事実ではないか。だが、その自分は完全に社会から孤立して、生活しているものではない。社会の相互愛の中で初めて生活し得るものである。故に自分自身を愛するならば、社会を自分の祖国を愛さぬ訳にはいくまい。又、愛すべき物が不足すると言うならば、自分でそれを造りだしていくべきだろう▼ここまで論じれば、愛国の二面にはエゴイズムの存在が感じられるだろう。数年前、広島に原爆を運んだ当の米兵が、「私は、平和の為に必要とあらば再び同じ事をするだろう。」といった。これは、一人の愛国心の持つゆきすぎた利己心の表われに他ならぬものであり、利己心の前に「平和」という言葉をつけただけの話である。しかし、人間は自由を与えられたものであるから、この様な愛国心を持つことも自由である。だが、ここで言えることは、この様な愛国心も、普通の愛国心も自分の表面に表わすなということである。時として、ゆきすぎた利己心を持つ愛国心から戦争も起き得るのだから▼ところで、現在の国会について考えてみよう。国会は〝祝日法改正〟に相当難行している様である。敬老・体育の日の承認されたものの〝建国記念日〟が、まだ承認されずにいる。果して、建国記念日を二月十一日にすると言うことは、根本になる愛国心に関係があるか有無ということは疑問である。ましてや、議決機関である国会で合否がとれず、学会に合否を要請するとはなさけない次第である。この様に、愛国心は、言葉としてはあるものの実際に正しく持っていない程の者は少なく全く持っていない程の者もいるという有様である▼愛国心を持たない様な人間が居るかぎり、世界の平和はあり得ない。自分の祖国さえ愛せない者は、世界を愛することなど出来る訳がない。しかし、、だからといって、持てば良いのではない。誤った愛国心こそ危険である。結局、世界の平和は、正しい愛国心を持とうとする我々の心がけ一つにあるといえるだろう。

ヴィアートール学園指定
教科書、参考書の
オーム社書店
京都支店　河原町四条上ル　(22)0280・0887
白梅町店　白梅町交叉点東入ル　(46) 1597

総体激戦のあと

硬庭（加登 野々内 組）輝く初優勝

ハンドボールは伏工に敗れる

高校

〔硬式テニス部〕

去る五月二十二日、堀川高校で行なわれた総体において、我が洛星高校硬式庭球部は、みごとなプレーで同志社等を破り、華々しく優勝し、しかもベスト四にもう一組入るという進出ぶりを見せた。では、試合の経過やその試合ぶりを、中学硬庭の中山君に語ってもらうことにする。

「〝古い新人〟今年の高一は中学から続けてきた最初の学年として期待され、注目されてきた。今度の優勝は他のクラブのように、華々しい試合もなく、三年間ただ黙々と激しい練習を続けた彼等にあって当然だといえる。又、ベスト3に二ペア進出したことは、選手層が、薄い等とは、決していえないことを証明した。

一回戦をシードされた両ペアは二回・三回戦で、圧倒的な強みを見せ、高城君は、得意のパッシングを、西村君は、安定したストロークを、加登君、野々内君のペアは、高二・三に匹敵する実力を発揮した。

四回戦でかなりの実力を持つ鴨沂・西高と対したが、両ペア共、ボレー・スマッシュ等にさえを見せ、さらにテタック・ドロップ・ショット等の技術を駆使して着実に勝ち進み、ベスト4入りを果たした。しかし準決勝で強敵同志社とぶつかり、高城・西村のペアは惜しくも敗れたが、中二から始め、パートナーを、変えねばならなかった高城、たった二週間の練習で京都ベスト4としての実力を示した西村の両君の殊勲は、優勝に決して劣らないものだ。

又、準決勝で苦戦の末、勝利をものにした、加登・野々内のペアは、決勝では、その勢いに乗ってか、一ゲームを接戦の末落としただけで楽々と優勝してしまった。なお、このペアが、同志社の応援の激しい野次にも動揺することなく、紳士的な試合を続け、勝ったことを心から賞讃し、改めて拍手を送りたい。」

○成績

一回戦　不戦勝

二回戦

洛星 6－0 紫野（松本 財木）

洛星 6－1 堀川（元木 西村）

三回戦

洛星 6－3 洛南（平井 中谷）

洛星 6－0 紫野（山中 阪本）

四回戦

洛星 6－3 鴨沂（河村 横村）

洛星 6－3 西高（内山 高田）

準決勝

洛星 1－6 同志社（藤井 針谷）

洛星 6－4 同志社（藤井 針谷）

決勝

洛星 6－1 同志社（藤井 針谷）

洛星（野々内 加登）

〔剣道部〕

剣道部は薄戦空しく嵯峨に敗れた。しかし敗れたとはいえ、仲々フェアな試合運びは大いに賞讃に価する。ここでは部長にその試合の経過や感想等を語ってもらうことにした。将来の剣道部の姿を頭に浮かべながらでも読んでほしい。

「当日雨が降り、他の会場の種目が行なわれなかったため、たくさんの人が武徳殿へ集まり、どのような結果であったか周知の方もおられるでしょう。

せっかくの応援にもかかわらず残念ながら見事にまけました。

しかし、その結果はどうであれ出場部員全員、一生懸命プレーしたことは認めていただけるでしょう。

今度のメンバーは、中三から練習を始めた試合経験のほとんどないものが大部分をしめ、その持てる力を十分に出せなかったことは本当に残念でした。

剣道は、柔道やボクシングなどと同様、二人が一対一で一騎打ちをする格技であり、試合中の心細さは、他の競技以上に強いものでその心理状態で勝敗が大きく左右されるものなのです。又、試合の最中は、一時の油断があれば打ちこまれるというせっぱつまった場におかれるので、試合経験等ということは致命的なハンディになるのです。

それというのも、技術的には他校（嵯峨）との差はほとんどなくほぼ互角に打ち合ってゆけるのですが、最後のキメ手となる有効な一本がうてず、良い意味での図々しさがまだまだ足りないようです。

しかし、今回のメンバーが、試合出場を重ね、試合をおぼえればどこまで進歩するかわからない。いい線を期待することも決して無理ではなくなるでしょう。

今年一年間、残された課題を解決するための期間とし、来年こそは何らかの成果をあげようと、部員全員練習にはげんでいます。」以上である。剣道部の将来には仲々明るい物があるようだ。

〔卓球部〕

卓球部の試合は5月21日に東山高校に於いて行なわれた。上級の部では1回戦に嵯峨野高と対戦した。嵯峨野は三年中心のメンバーであり、経験の相違はいかんともし難く、大接戦の末惜しくも敗れた。しかしこの健闘は賞える。下級の部においては非常に良くがんばり、ベスト8に名を連ねるという大奮闘ぶりを示した。

一回戦は京商と当たったが3－2でこれを辛くも下した。この勝利が後の試合に大きなプラスとなったようだった。二回戦は伏見工と対戦したが4－1でこれに快勝、準々決勝に残った。しかしここで強豪平安と顔を合わせ0－3のストレートでこれを落とした。ちなみに平安は二位となった学校であった。今後の活躍に期待したい。

○成績（上級の部）

一回戦

洛星 2－3 嵯峨野

×T沼田 0－2 法貴

×2酒見 1－2 三津川

○M酒見 久世 2－1 法貴 真壁

×L佐納 1－2 真壁

（下級の部）

一回戦

洛星 3－2 京商

○T佐納 2－0 福島

○2酒見 2－0 山本

×M酒見 久世 1－2 山本 安井

×4久世 1－2 安井

○L村上 2－0

二回戦

洛星 4－1 伏見工

×T佐納 1－2 寺田

○2酒見 2－0 横岩

○M酒見 久世 2－0

○4久世 2－0

○L村上 2－0

三回戦準々決勝

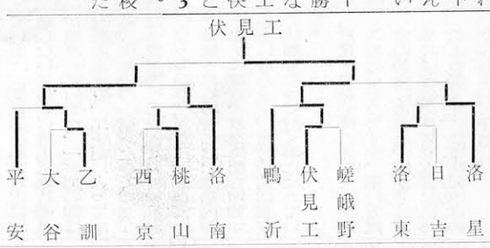
洛星 0－3 平安

×T佐納 0－2 中村

×2酒見 1－2 上田

×M酒見 久世 0－2 岡田 大橋

今後も大いなる活躍を望む。



〔ハンドボール部〕

先頃行なわれた京都府ハンドボール選手権大会（春季大会）において、決勝で伏見工高に9－8で勝ったのとは逆に、今回は全く同じスコアの8－9で準決勝で敗退した。これまでの実力からこの敗戦は全く意外であったが、これも運・不運によるから、仕方がないであろう。試合内容は、鈴木（学）橋本らの活躍が目立ち、特に鈴木（学）は欠くことのできない貴重な戦力である。

○成績

一回戦――不戦勝

二回戦

洛星 11（5－2, 6－8）10 洛東

準決勝

伏見工 9（3－3, 6－5）8 洛星（於・伏見工高）

「読書のすすめの」編集をおえて

一学期も終りに近づき、そろそろ地図を広げて休暇中の旅行プランをしているグループを見かけるようになりました。

図書館の仕事の一つに良書の推薦があります。これは長い休暇中に日頃学習に追われて読書が出来ない人、又読書したいと思って書物を選ぶとき何かの指針になればと考えて、六、七年前に始められたものですが、今年度は今までの選書を再検討し「読書のすすめ」という冊子に編集してみました。

昨年度の調査で一年間に、学校や家庭で読書した者（一冊以上）が約七九％、図書館で編集した「ぼくたちの選んだ書」「君にすすめたい図書」の中から選んで読書した者が約七七％という数字が出ております。約二〇％の者が読書していないことになります。それも上級生に多いのです。さしずめ受験ということで、受験に必要な書物以外は不要に思う人もあるかと思いますが決してそうしたものではありません。受験の目的がよい高度な学問を受けるために大学に進学すること、もしくはより広い大人の社会に参加するためであるならば一層、高く、広く、読書することこそ不可欠となる筈であります。諸君の先輩をみても、読書やクラブ活動をしたことによって受験の目的が果せなかったという例はなく、読書や、クラブ活動さえ、人並に行えないような人物では所期の目的完遂も覚つかないでしょう。

「読書のすすめ」の編集を終って、最良のものを諸君に贈るのだ、などという自惚や自信があるわけでは決してありません。選書にも、編集方法にも、さまざまな考えもありますので、これからもどしどし改めていかなければならない点が多いと思います。そうしてみて統一しなければならぬことと、差替えた方が適切であるなど……いろいろありますが、それを改めるにやぶさかではないつもりであります。それに何より大切なことは、直接使用する生徒諸君にとって「読書のすすめ」がどういう効果をもたらすかということであります。諸君の若い魂に「読書のすすめ」が何らかのキッカケを与え、生長させ他日はるかな場所で図らずも見事な花を開いたならば、それこそ真のみのりと呼ぶべきでしょう。

新刊書案内

書名	巻数
総記（0）	
現代新百科事典	2
津田左右吉全集	29・30・31
朝日年鑑 41年版	
世界の名著	3・6
世界大百科事典	12
西田幾田郎全集	14
哲学・宗教（1）	
カトリック全書	95
キリスト教と共産主義	
七重の山	
地理・歴史（2）	
日本の歴史	14・15
ライフ・ワールド・ライブラリー	
合衆国の歴史	7・8
物語藩史 第2期	7
福沢諭吉	
幕末の長崎	
古墳文化と古代国家	
日本古代人名辞典	5
日本文化史	1
紫式部	
日本書紀子思索引	3
国史大系	1
国史大系	46・57
寛政重修	21
インドネシアの横	
国連事務総長	
世界の文化地理	6・18
世界地理	2
大航海時代書	7
社会科学（3）	
日本の民具	
御成敗式目研究	
ベトナム戦争とゲリラ	
軍事費	
憲法を読む	
自然科学（4）	
音と聴覚の話	
生長の話	
化学の研究	
物理の研究	
新地学の研究	
免疫生物学	
化学改訂版	2
芸術（7）	
日本原始美術	6
世界大音楽全集	71
陶器全集	12・14・21
陶器全集	27
国宝	4
演劇入門	
世界大音楽全集	34・41・42 47・71・72
語学（8）	
英語語法大事典	
文学（9）	
明治文学全集	8・31
源氏物語の美	5
日本文芸の様式	
日本古典文学大系	84
ジェシカの日記	
荘子内	
中国の故事名言	
折口信夫全集	5・6
狭衣物語	41
大鏡	
源氏物語評訳	別巻1
世界文学全集	24
小泉八雲作品集	3
竹取・伊勢物語	
室生犀星全集	
計	79

ハンド、四連覇

陸上も上位進出へ

中学

〔ハンドボール部〕

ハンドボールは今年の大会に於いて輝く四連覇をなし遂げた。この春季大会は、6月5日と11日の2日に渡って、皆山中グラウンドで行なわれた。実力と伝統をほこる洛星は八条・下鴨中を10点以上の大差で楽勝し、決勝へ進出した。相手は洛星の年々の宿敵桃山中だった。桃山は洛星の強じんなディフェンスのため容易にゴールを落とし入れることができず、洛星も中心選手の日下部が桃山に徹底的にマークされたので試合は予断を許さぬ緊迫した物となった。しかし洛星はこれもポイントゲッターの大同・滝のコンビネーションが良く、うまく得点を得た。前半はとうとう5－2と洛星が3点のリード。しかし後半は桃山の必死の反撃のため得点差は開かなかった。洛星の鋭いスピード攻撃とたくましい体力とは仲々見ごたえがあり、決勝戦にふさわしい熱戦を展開したが総合力においてわずかにまさる洛星が後半も5－4で押し切り合計10－6で堂々桃山中を破った。これが後に書いた通り洛星は四連覇でこの大会優勝を飾った。

○成績

一回戦

洛星 18（12－2, 6－4）6 八条

準決勝

洛星 22（11－5, 11－6）11 下鴨

決勝

洛星 10（5－2, 5－4）6 桃山

ハンドボール部優勝

〔卓球部〕

卓球部は日頃の猛練習が幸いしたのか、仲々例年にない活発な活躍を見せた。特に一回戦は八人中五人が勝ち進むという好調ぶりを示した。しかしその後強敵と当たるにつれ消えて行き、四回戦では角君だけが残るということになったが、その角君も1－2で敗れた。今後も練習を積み重ねて大きく伸びてもらいたい。

○成績

（Bゾーン予戦）

一回戦

○佐伯 2（2－1, 2－1）4 岡本（旭丘）

×竹林 1（14－1, 18－2, 22－1, 21－2）4 吉田（北野）

○角（キケン） 上倉（立命）

○小寺 2（2－1, 1－0）3 橋本（加茂川）

○有賀 2（2－1, 4－1）5 中村（嘉楽）

二回戦

×佐伯 1（1－2, 2－4, 9－1, 2－2, 2－1）5 丸山（立命）

○金田 2（2－1, 1－5）3 鉢（旭丘）

○角 2（2－1, 1－6）3 西岡（加茂川）

○小寺 2（2－2, 1－7）4 坂井（上京）

○有賀 2（2－1, 6－1）5 高原（立命）

三回戦

×金田 0（14－21, ?－?）2 猪飼（双ケ丘）

○角 2（2－1, 1－5）3 和田（双ケ丘）

×小寺 1（23－1, 18－2, 21－5, 18－2）8 松宮（嘉楽）

×有賀 0（16－21, ?－?）2 浜本（双ケ丘）

四回戦

×角 1（17－2, 18－1, 22－2, 20－1）5 田村（滋野）

〔バスケットボール部〕

バスケットボール部は仲々のメンバーで活躍が期待されており、その前予想にたがわず第一戦に完勝した。しかし、惜しくも第二戦で一点差という極少差で敗れ去った。このような健闘ぶりを示したバスケットボール部の戦合の様子をふり返ってみよう。まず第一戦の洛南とは前半、後半共奪い全く完勝といえる。けれども勝つには勝ったがミスが多く、本当の部の力が十分に出されていないようだった。二戦は嘉楽。嘉楽は今総体のシード校であり、実力を有すチームで本体会四位に入った所である。その強敵と当たった洛星は前年実にうまく点を重ねて差を開きそのまま押しきるのではないかと見られたが、後半急に乱れストレートで15点をいれられたままセットした。そして合計では僅か1点の差で敗れたのだった。全く洛星は惜しい試合を失ったものだ。嘉楽の後半の悪質なプレーも少しあったがまずもって好試合だった。また大会と直接関係もないが練習試合で蜂ケ岡と対戦し、この前は大敗したが45－34で勝ったことをお伝えしておく。尚、蜂ケ岡はこの大会で嘉楽に8点差で勝った学校であった。

○成績

一回戦

洛星 23（6－10, 17－14）14 洛南

二回戦

嘉楽 19（4－18, 15－0）18 洛星

〔陸上競技部〕

先日行なわれた総体では総合6位（13点）をおさめ、個人においても各人共予選を通過、準決勝まで進出している。年々尻上がりに水準のアップしてきた陸上部は有望な人材もあり、又来年にも期待できる。しかしなんといっても、前の奥田健君の如きスター的存在がないのは少しさびしいといえないこともない。部長に聞いてみると、「洛星の水準は他校よりかなり上になってきた。」ということで、この自信で進めば優勝者がでるとも思われる。張切ってもらいたい。

○成績

総合6位（13点）

（走り幅飛び）

二位 木村 厚 5M63

三位 華山 鐘弥 5M63

（走り高飛び）

四位 野上 和夫 1M50

（一〇〇M走）

六位 黒田 泰行 12秒8

目立つ耳鼻疾患者

身体検診終る

4月に実施した身体計測及び検診の結果をまとめてみた。

(1)身体の発育状況

④図を見れば分かるように全国平均を大分上回ったものであり、昨年と大差はなく、特に指適するところはない。まず身体発育については非常に優良と言えよう。

(2)疾病異常

㋺図は主な物を掲げてみた。特に目立つものは眼と耳鼻科疾患であった。

○近視……全国的に増加の傾向ではあるが、本校では全国平均とかけ離れた率を示している。この中には学校近視（仮性近視）といわれる物も含まれているが、姿勢、照明に注意し、機会ある毎に遠くの山や緑の木をながめ眼をやすませ、特に家庭においてテレビの視聴、又夜間の学習における照度、照明に気をつける等、各自が近視の予防に心掛けるべきである。

○眼科・耳鼻科疾患……先程の表で見ると中1、高1が他の学年に比べ約2倍の率になっている。これは受診の対象を他の学年は以前に異常のあった者、及び希望者としたのに対し中1、高1は全員を受診させた結果である。これによって本人が自覚していなくても、相当数の異常者があると想像できる。なるべく受診するようにしてほしい。

(3)近視予防に関する家庭に於ける考慮事項

○勉強用スタンド……勉強机の上を最低二〇〇ルックス以上にし、細かい辞書等を見る場合は五〇〇ルックスが理想とされている。ことに掲げた螢光灯スタンド照明分光図（⑧図）を見れば、二〇Wが理想であり、少なくとも一五Wでなければならないといえる。又、二〇Wの螢光灯であっても、それ以外を見るので室内の照度も一〇〇ルックスないし二〇〇ルックスにしておく必要がある。

④テレビジョン視聴の注意

○テレビジョンの位置と距離……テレビジョンの画面の高さは目の高さと同じか、やや低めがよく、距離は㊀図に示すように、画面の縦幅の4倍から10倍の範囲とする。

○観賞時間に区切りをつけ、目を休ませる……連続1時間見たら10分以上目を休ませるのがよい。

○周囲は暗黒にしないで適当な照明の下で見ること……テレビの周囲には五〇ルックス前後の照明が必要である。

○テレビの調整をよくすること……画面のちらつき、強すぎるコントラスト、暗すぎる画面等は目の疲労の原因となる。

④ 身体の発育状況　S41.4計測

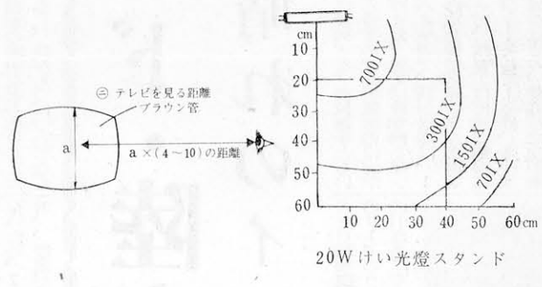
			M1	M2	M3	HI	HII	HIII
身長	本校		148.7	156.1	161.7	166.9	168.0	166.5
	全国		144.1	151.2	157.7	163.2	165.6	166.4
体重	本校		41.3	46.5	51.6	55.0	58.0	58.2
	全国		36.0	41.4	47.0	52.0	55.4	57.1
胸囲	本校		72.0	75.7	78.2	84.6	86.6	84.7
	全国		69.4	73.3	77.2	80.9	83.4	85.2
坐高	本校		80.1	83.5	87.4	89.7	90.2	89.5
	全国		78.0	81.6	85.0	87.9	89.3	89.9
下肢長	本校		39.4	41.0	42.8	43.1	43.4	43.4
	全国		—	—	—	—	—	—

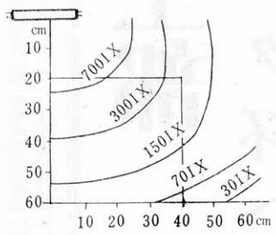
全国平均―39年度学校保健調査報告書（文部省発行）

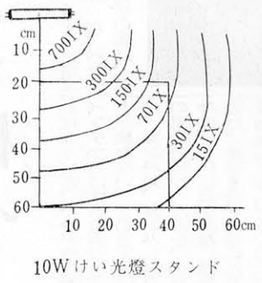
㋺ 疾病リ患率

			M1	M2	M3	HI	HII	HIII
近視	本校		39.5	37.4	41.1	47.8	46.2	48.8
	全国		18.1	21.8	25.8	35.4	36.5	36.0
色神	本校		7.3	3.1	4.7	3.1	1.7	4.8
	全国		2.1	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0
眼科	本校		7.8	2.6	2.6	7.3	3.4	1.0
	全国		7.2	6.7	5.5	5.3	4.8	4.4
耳鼻咽喉	本校		35.4	19.8	13.0	25.0	10.8	7.4
	全国		15.8	13.1	11.4	10.5	9.2	7.5
皮膚	本校		5.7	2.6	6.8	15.6	5.7	21.2
	全国		—	—	—	—	—	—
未処置う歯	本校		44.7	56.2	55.1	40.6	85.5	72.8
	全国		65.9	66.3	71.2	64.3	63.8	62.7

（単位%）







年々デラックス化

旅行予定決まる

今年も夏休みを前に、HIIの修学旅行を中心に学年旅行の予定が決定した。M2・HIの旅行がないのは昨年とかわらないが、その他の学年は相当変っているので、ここに紹介する。

詳細は下表のとおりだが、中1は例年の小豆島旅行が、プール完成と共に黒部方面へとかわった。また、中3の富士山旅行も、昨年、一昨年のバス利用から新幹線利用となり、中1がバス利用となった。

一方高校の方は、HIIIの志賀高原行きは例年とほとんどかわらない。メーンエベントの修学旅行は、昨年同様新幹線利用であるが、〝十和田湖めぐり〟が今年からなくなって道内の観光日程が一日ふえ、北海道を十分に見てまわることができるようになった。

これらの学年旅行をはじめ多くの課外活動を通じてこの夏休みを意義あるものにしょうではありませんか。

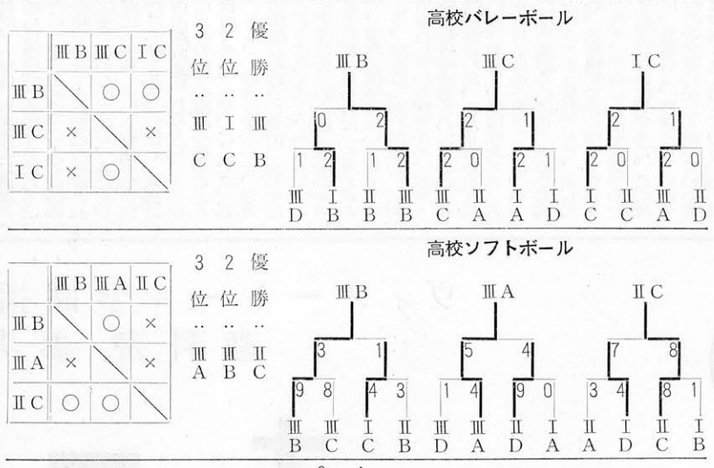
中一（黒部）	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日
	京都――大垣――松本――大町――扇沢――黒四ダム――木崎湖（泊）		美ケ原――蓼科（泊）	白樺湖――松本城――京都
中三（富士山）	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日
	京都（8.40集 9.23発）――静岡（11.35着 12.30発）――修善寺（泊）16.00	修善寺（9.00）―元箱根（9.30）―湖尻（10.00着10.10発）―大涌谷（10.30） 仙石（10.50着13.00発）――山中湖（14.00着15.00発）――河口湖（泊）15.30	河口湖（7.00）――五合目（8.00）――五合目（15.00） 河口湖（泊）16.00	河口湖（9.30）――風穴――本栖（着9.50発10.50）――白糸の滝（着 2.30発13.30）――富士（着14.40発15 01）――静岡（着15.42発16.00）――京都 18.15
高二修学旅行（北海道）	8月3日～4日	8月5日	8月6日	8月7日
	京都―東京―上野（泊）―青森―函館―大沼公園―トラピスト―立待岬―湯の川温泉（泊）	湯の川――函館――札幌――月寒――札幌（泊）	札幌――上川――銀河・流星の滝――層雲峡温泉（泊）	層雲峡――石北峠――美幌峠――網走（泊）
	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日～12日
	網走――厚生公園――知床五湖――川湯温泉（泊）	川湯――摩周湖――阿寒湖畔――釧路（夜行）	登別――地獄谷――昭和新山――洞爺湖温泉（泊）	洞爺――函館――青森――上野――京都
高三（志賀高原）	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日	8月26日
	京都――長野――丸池（泊）16.00 5.00	高天ケ原――東館山――笠岳――池めぐり・テニス等 キャンプファイアー			丸池――松本城――京都 7.00 12.00～13.00 21.00～22.00

校内スポーツ大会

IIIBが大奮戦

中学3年上位独占

高校



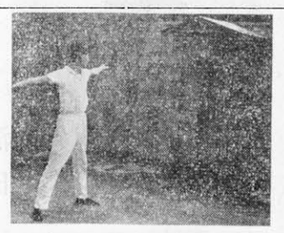
編集後記

▼前号を出してからはや一ケ月余り。どうにかして考査一週間前にまで出そうとしたが、大巾に遅れて前号同様、期末考査直前発行となった。祇園ばやしが聞こえ、不快指数もどんどん上る今日このごろであるが、がんばって作った新聞ですから、ぜひ読んでもらいたい。

▼創立十五周年を迎えた「洛星」を願える意味で〝洛星回顧録〟をはじめました。今回は前田（宣）先生に執筆をお願いしましたが、今後はいろいろな先生に次々とリレー方式で書いていただく予定ですので御期待下さい。（K）

トピックス

新弓道場完成



宗教研究館の東側にあった弓道場が昨年の台風で破損したままになっていたが、今度新しく講堂の西側に完成した。もっと早く建築する予定であったが講堂の建物とのバランスを考え延ばしていたもので、新弓道場は幅四米、三人立ちの立派なものである。

五月十一日顧問のブリュダム神父司式のもとに祝列を行い、高校三年の田中富士夫君による「矢渡し」の式のあと新道場の使用を開始した。